

【教育目標】 未来をひらく豊かな社会をめざして
 ◎ 自ら進んで学ぼう ○思いやりの心 感動する心をもとう ○たくましく 心と体をきたえよう

※評価は4段階(A…9割以上達成、B…8割以上達成、C…5割以上達成、D…達成5割未満)

学校評価計画		学校評価報告 / 自己評価				
目指す学校像	評価項目 (=中長期的目標)	評価方法・目標水準	評価結果	評価 自己評価 関係者評価 最終評価	(上段)○学校関係者評価の概要及び意見 (下段)●考察及び、次年度への課題と解決策	
○確かな学力の向上	①総合的な学習の時間を中心にプレゼンテーション・発表活動を充実させ、年に1回以上PCを用いた発表する機会を設定する。授業の中で タブレットPC を効果的に活用する。(令和3・4年度日の出町研究指定の実践の継続) ②思考力・判断力・表現力を高める指導の工夫する。 【主体的・対話的で深い学び】 【日の出町学習スタンダード】 {個-グループ(協働学習)-全体での活動}を徹底する。 ③家庭学習の習慣を付けるため、 【学習見える化計画表】 に取り組みせ、学習のきっかけをつかませる。 ④テスト前の 質問教室 は全教科で行う。また、休業中の 学習教室 は年間 15日 以上実施する。放課後学習教室を毎週火曜日と水曜日に開催する。	授業の中でどの教科もタブレットPCを効率的に活用できた。 各授業で協働学習は定着してきた。 3年計画の1年目計画表の使用回数が少なかった 年間15日以上実施	A B D A	B B	○見える化計画表の評価が「D」と残念な結果ですが、A・B評価の方が割合が多いので向上という判断でよいと思います。今後の課題も明確になっているので全体的に「A」評価だと思います。 ○生徒の自主性を重んじ、学力向上の取組が感じられた。 ○生徒の(記入者側)の負担軽減をするために、「学習見える化計画表」と「やりとり帳」の整理統合はできないでしょうか。(2件) ○作品展の作品を見て、個人の思考力・表現力が優れていると感じました。昔の詰め込み教育とは別のものを感じました。 ○質問教室・学習教室など授業以外に学校で学習できるのは、とても良いことだと思います。これからは是非継続してください。見える化計画表は活用しないもったいないです。 ●学習を見通すための年間計画として 【学習見える化計画表】を導入し家庭学習の定着 を促しているが、各学年に毎日記入する「やりとり帳」が優先されてしまつてから、来年度から使用頻度を高める工夫をすることで、先を見ながら学習する力を育成に役立てていきたい。 ●ICTを活用した取組は、どの授業でも定着してきている。今後、 デジタルの良さとアナログの良さ を見極めて授業に取り入れていく必要がある。 ●タブレット上で 各自、各班の意見を見る化 し、協働活動により思考力・判断力・表現力を高める場の設定をタイムリーに設けていくことを更に各教科での授業研究を行っている。	
					○落ち着いた学校を継続できていることは素晴らしい。 ○特に問題なく「A」評価 ○進路先100%はありがたいとございました。デジタル化が進んでいる事に感心しています。色々な家庭があり大変とは思いますが引き続きお願いします。 ○学校行事が非常に充実しているように感じました。 ○様々な場で自己肯定感の感覚を大切にしていきたい。 ○学校行事の参加率(生徒・保護者)が高い傾向はとても良いと思います。進路面接練習も人数の少ない学校だからこそのところもありますが、練習回数も多く、生徒にとってはありがたい機会だと思います。ありがとうございます。 ○体育祭・音楽会はいつも楽しませていただいています。○高校出願がネットになり、家庭での責任が大きくなったのは、良いと思います。生徒と保護者が協力して出願することは得ることもあると思います。	
					○3年生の進路について、副校長・副校長補佐による面接後、校長面接練習を全員実施し、一人2回以上練習を行い意識を高めた。都立推薦合格 46% 、都立一般合格 79% であった。今年度の3年生の進路状況は以下のとおりである。(都立高校31名、私立14名、高等専門学校1名、専修学校3名、広域単位・通信制2名)卒業生51名全員の進路先は卒業式前に決定した。 ●私立高校はもちろん都立高校も インターネット出願やオンライン決済 となり、出願に関して家庭での責任が大きくなったことを、1・2年生のうちから保護者にも周知していく必要がある。 新たな取組であるESAT-Jの導入等は1・2年生にも導入したため、3年になったときには安定した受験ができると考えている。	
					○人権尊重問題は、昔から難しい課題です。「作文委員会賞」受賞は良い結果です。○①は目標レベルが高すぎるような気がします。○本来道徳教育は家庭で主に取り組むべきだと考えるが、大久野中では人権尊重の意識向上の取組も含め充実した取組が行われていると感じる。 ○生徒アンケート72%=0、評価が辛口かなと思います。評価基準が不明。 ○人権作文ではお世話になりました。積極的な取り組みをいただき感謝いたします。 ○いじめだけでなく思わす人を傷つける言動をしてしまった生徒も年齢から考えると、双方の聴き取りを早めにする事で心もケアされると思います。	
○感動あふれる学校	①体育祭、音楽会、職場体験における生徒の表現力を向上させる。保護者アンケートで、各行事で感動したと回答する割合を 80%以上 にする。 ②一人一人に適した卒業後の進路決定。卒業式までに生徒の 進路先を100% 決定する。 ③体育祭、合唱会に 生徒全員参加率を90%以上 にする。 ④夏季休業中を利用して生徒が 2校以上高校訪問 を行う。進学講演会、進路説明会の充実。更に、進路説明会保護者の参加率を 90%以上 にする。	アンケートから85% 進路決定 100% 体育祭生徒参加率 95% 音楽会生徒参加率 94% 夏季休業中2校以上 74% 進路説明会 参加率 84%	A A A B	A A	○落ち着いて学校を継続できていることは素晴らしい。 ○特に問題なく「A」評価 ○進路先100%はありがたいとございました。デジタル化が進んでいる事に感心しています。色々な家庭があり大変とは思いますが引き続きお願いします。 ○学校行事が非常に充実しているように感じました。 ○様々な場で自己肯定感の感覚を大切にしていきたい。 ○学校行事の参加率(生徒・保護者)が高い傾向はとても良いと思います。進路面接練習も人数の少ない学校だからこそのところもありますが、練習回数も多く、生徒にとってはありがたい機会だと思います。ありがとうございます。 ○体育祭・音楽会はいつも楽しませていただいています。○高校出願がネットになり、家庭での責任が大きくなったのは、良いと思います。生徒と保護者が協力して出願することは得ることもあると思います。	
					○3年生の進路について、副校長・副校長補佐による面接後、校長面接練習を全員実施し、一人2回以上練習を行い意識を高めた。都立推薦合格 46% 、都立一般合格 79% であった。今年度の3年生の進路状況は以下のとおりである。(都立高校31名、私立14名、高等専門学校1名、専修学校3名、広域単位・通信制2名)卒業生51名全員の進路先は卒業式前に決定した。 ●私立高校はもちろん都立高校も インターネット出願やオンライン決済 となり、出願に関して家庭での責任が大きくなったことを、1・2年生のうちから保護者にも周知していく必要がある。 新たな取組であるESAT-Jの導入等は1・2年生にも導入したため、3年になったときには安定した受験ができると考えている。	
					○人権尊重問題は、昔から難しい課題です。「作文委員会賞」受賞は良い結果です。○①は目標レベルが高すぎるような気がします。○本来道徳教育は家庭で主に取り組むべきだと考えるが、大久野中では人権尊重の意識向上の取組も含め充実した取組が行われていると感じる。 ○生徒アンケート72%=0、評価が辛口かなと思います。評価基準が不明。 ○人権作文ではお世話になりました。積極的な取り組みをいただき感謝いたします。 ○いじめだけでなく思わす人を傷つける言動をしてしまった生徒も年齢から考えると、双方の聴き取りを早めにする事で心もケアされると思います。	
					●生徒アンケートにて、「挨拶礼儀等基本的な生活習慣はできていたか」 93% 、「社会規範を守る態度や思いやりの心が育ちましたか」 86% と、肯定的な意見が多く、生徒の落ち着いた様子が見られていた。 ●人権作文では、全学年128名の応募した。 1名「作文委員会賞」 を受賞し、人権について意識を高めることができた。 ● 年間3回のいじめに関する実態調査 を行い、初期対応に当たることができた。また、数件あったいじめの問題を重大性の高いいじめと捉え、事実確認し謝罪の場を設けて丁寧に対応できた。その後もSCに被害者、加害者ともつなげ、 全校体制で見守り を継続した。	
○道徳教育が充実している学校	○人権尊重の意識の醸成・自他を尊重する心や態度の育成	①生徒アンケートで、悪口、言葉の暴力や意地悪をしなかったと答える生徒を 90%以上 にする。 ②全校で 人権作文 に取り組みせ、生徒の 作文提出率を80%以上 とする。 ③道徳授業の充実。 4人グループでの話し合い活動を取り入れ 【考える道徳、論議する道徳】 を行う。 ④ 年3回 のふれあい月間終了時にいじめに関する実態調査を行い、記載事項については聞き取り調査も実施し、 初期対応に当たって問題解決 させる。	生徒アンケートから72% 人権作文提出率 86% グループ活動を取り入れた道徳授業が定着してきた。 3回の実態調査を行う。タイムリーに生徒への聴き取りができた。	C B B A	B B	○人権尊重問題は、昔から難しい課題です。「作文委員会賞」受賞は良い結果です。○①は目標レベルが高すぎるような気がします。○本来道徳教育は家庭で主に取り組むべきだと考えるが、大久野中では人権尊重の意識向上の取組も含め充実した取組が行われていると感じる。 ○生徒アンケート72%=0、評価が辛口かなと思います。評価基準が不明。 ○人権作文ではお世話になりました。積極的な取り組みをいただき感謝いたします。 ○いじめだけでなく思わす人を傷つける言動をしてしまった生徒も年齢から考えると、双方の聴き取りを早めにする事で心もケアされると思います。
						●生徒アンケートにて、「挨拶礼儀等基本的な生活習慣はできていたか」 93% 、「社会規範を守る態度や思いやりの心が育ちましたか」 86% と、肯定的な意見が多く、生徒の落ち着いた様子が見られていた。 ●人権作文では、全学年128名の応募した。 1名「作文委員会賞」 を受賞し、人権について意識を高めることができた。 ● 年間3回のいじめに関する実態調査 を行い、初期対応に当たることができた。また、数件あったいじめの問題を重大性の高いいじめと捉え、事実確認し謝罪の場を設けて丁寧に対応できた。その後もSCに被害者、加害者ともつなげ、 全校体制で見守り を継続した。
						○人権尊重問題は、昔から難しい課題です。「作文委員会賞」受賞は良い結果です。○①は目標レベルが高すぎるような気がします。○本来道徳教育は家庭で主に取り組むべきだと考えるが、大久野中では人権尊重の意識向上の取組も含め充実した取組が行われていると感じる。 ○生徒アンケート72%=0、評価が辛口かなと思います。評価基準が不明。 ○人権作文ではお世話になりました。積極的な取り組みをいただき感謝いたします。 ○いじめだけでなく思わす人を傷つける言動をしてしまった生徒も年齢から考えると、双方の聴き取りを早めにする事で心もケアされると思います。
						●生徒アンケートにて、「挨拶礼儀等基本的な生活習慣はできていたか」 93% 、「社会規範を守る態度や思いやりの心が育ちましたか」 86% と、肯定的な意見が多く、生徒の落ち着いた様子が見られていた。 ●人権作文では、全学年128名の応募した。 1名「作文委員会賞」 を受賞し、人権について意識を高めることができた。 ● 年間3回のいじめに関する実態調査 を行い、初期対応に当たることができた。また、数件あったいじめの問題を重大性の高いいじめと捉え、事実確認し謝罪の場を設けて丁寧に対応できた。その後もSCに被害者、加害者ともつなげ、 全校体制で見守り を継続した。
○保護者や地域との連携の推進	①保護者アンケートにおいて、「学校の情報や生徒の様子の方がやりやすく伝えられている」と答える保護者の割合を 90%以上 にする。(学校HP、学校だより、学年だよりで情報発信する。宿泊行事等は 【すぐメール】 でリアルタイムに情報発信し、家庭に様子を伝える。) ② 【日の出町教育ビジョン2023】 家庭・地域・学校が 【かかわりと】 と 【つながり】 を意識した取組を推進し、「学び」の成果を地域や次の世代に伝える 【学びの循環】 を大切に。 ③全ての判断基準を 【生徒ファースト】 決められたルールの中で先ず、生徒に必要なかどうか、教育的効果を考える中、教員の働き方改革を考慮しつつ、保護者・地域の理解を得る。 ④学校行事、学校公開の積極的な公開の推進。学校行事における地域からの参加者のアンケートで「満足した」と回答する率を 90%以上 とする。	アンケートから88% アンケートから75% アンケートから77% アンケートから96%	B C B A	B B	○②の目標は、抽象的でレベルが高いかもしれませんが、パーセントで見ると、もう少しですが、女子スラックス導入や生徒ファースト、時代に合わせて一工夫が見える。 ○C評価が二つありますが75%以上は良くやれていると思います ○各種行事の公開など、地域と密にかかわっていると感じます ○保護者や地域との連携を大切にされていると感じます ○学校だよりを読ませていただきながら様子がよく分かります。このお便りが親の手元へどれだけの家庭に届いていくか自分の経験上当時を思い出しました。3人いれば3様違いはありましたが ○「生徒ファースト」に私もわくわくさせられています。生徒はなおさらだと思います。 ○女子のスラックス導入は時代的に必要だと思いましたが、ジャージのリニューアルに投票を取り入れるのは画期的でした。	
					●学校経営の「 生徒ファースト 」は定着しつつある。 ●感染症対策とつながりながら、できる限り本来の形に戻しつつ 不要なもの、必要なものを精査 し、更に新しいより現状にあったものに変えてきた。学校の情報は、学校だより、学年だより、宿泊行事等でのすぐメールで各家庭に生徒の様子を周知することができた。 ● 女子制服のスラックス導入 や、令和6年度からジャージ・ハーフパンツ・シャツは、保護者の意見、在校生・教職員の 投票によりリニューアル することができた。 ●学校行事とおして、家庭・学校・地域との「 かかわりと 」「 つながり 」を更に意識を高めていくため、現状の取組に一工夫入れる。	
					○人権尊重問題は、昔から難しい課題です。「作文委員会賞」受賞は良い結果です。○①は目標レベルが高すぎるような気がします。○本来道徳教育は家庭で主に取り組むべきだと考えるが、大久野中では人権尊重の意識向上の取組も含め充実した取組が行われていると感じる。 ○生徒アンケート72%=0、評価が辛口かなと思います。評価基準が不明。 ○人権作文ではお世話になりました。積極的な取り組みをいただき感謝いたします。 ○いじめだけでなく思わす人を傷つける言動をしてしまった生徒も年齢から考えると、双方の聴き取りを早めにする事で心もケアされると思います。	
					●生徒アンケートにて、「挨拶礼儀等基本的な生活習慣はできていたか」 93% 、「社会規範を守る態度や思いやりの心が育ちましたか」 86% と、肯定的な意見が多く、生徒の落ち着いた様子が見られていた。 ●人権作文では、全学年128名の応募した。 1名「作文委員会賞」 を受賞し、人権について意識を高めることができた。 ● 年間3回のいじめに関する実態調査 を行い、初期対応に当たることができた。また、数件あったいじめの問題を重大性の高いいじめと捉え、事実確認し謝罪の場を設けて丁寧に対応できた。その後もSCに被害者、加害者ともつなげ、 全校体制で見守り を継続した。	
○真に信頼される学校	①自己評価で組織的な運営ができたと答える教員の割合を 90%以上 にする。主幹教諭を軸とした 組織的な学校運営 の推進。 ②不登校生徒の 【居場所づくり】 を重視し、複数の教員での 【つながり】 をもつことで寄り添い指導を徹底する。支援コーディネーターを中心に、SCや町教育相談と連携する。 ③毎期の経営会議で3名の主幹教諭への指示・伝達を行うことで、学校経営への参画をさせ、各分掌及び学年による 若手教員に対するOJT を充実させる。 ④生活指導部と連携し、情報交換に留まらず、指導方針を打ち出し徹底する。生活指導主任を中心に各学年の生活指導担当と連携を図り、 問題解決に即時取り組み解決 させる。	教員の自己申告の学校運営から平均 77% 特別支援委員会年間 35回以上 経営会議は長期休業中以外は毎日実施できた。 生活指導主任を中心に生活指導部と学年が連携し、いじめ問題の早期解決ができた。	C A B A	A A	○校長の学校経営が優れていると感じています。 ○教員の自己評価が低い割合ですが、問題解決が早期にできたこと、若手教員のOJTに取り組む姿勢が今後期待できる。 ○「居場所づくり」の具現化(スマイルルーム)はとても良かったです。○生徒一人一人と向き合った学校運営を行っていると感じます。 ○「居場所づくり」の設置は、生徒の意見を取り入れながら様々な工夫がなされホッとできる場があることで救われる生徒がいると思うと心温まります。忙しい世の中心静かに自分に集中できる時間は思春期の生徒にとっては必要な子もいるでしょう。 ○「スマイルルーム」は色々パターンがあつてよかったです。不登校対策だけでなく、悩んだり傷ついたり一人になりたい時にも利用できそうですね。	
					●学校経営の「 生徒ファースト 」は定着しつつある。 ●感染症対策とつながりながら、できる限り本来の形に戻しつつ 不要なもの、必要なものを精査 し、更に新しいより現状にあったものに変えてきた。学校の情報は、学校だより、学年だより、宿泊行事等でのすぐメールで各家庭に生徒の様子を周知することができた。 ● 女子制服のスラックス導入 や、令和6年度からジャージ・ハーフパンツ・シャツは、保護者の意見、在校生・教職員の 投票によりリニューアル することができた。 ●学校行事とおして、家庭・学校・地域との「 かかわりと 」「 つながり 」を更に意識を高めていくため、現状の取組に一工夫入れる。	
					○人権尊重問題は、昔から難しい課題です。「作文委員会賞」受賞は良い結果です。○①は目標レベルが高すぎるような気がします。○本来道徳教育は家庭で主に取り組むべきだと考えるが、大久野中では人権尊重の意識向上の取組も含め充実した取組が行われていると感じる。 ○生徒アンケート72%=0、評価が辛口かなと思います。評価基準が不明。 ○人権作文ではお世話になりました。積極的な取り組みをいただき感謝いたします。 ○いじめだけでなく思わす人を傷つける言動をしてしまった生徒も年齢から考えると、双方の聴き取りを早めにする事で心もケアされると思います。	
					●学校経営の「 生徒ファースト 」は定着しつつある。 ●感染症対策とつながりながら、できる限り本来の形に戻しつつ 不要なもの、必要なものを精査 し、更に新しいより現状にあったものに変えてきた。学校の情報は、学校だより、学年だより、宿泊行事等でのすぐメールで各家庭に生徒の様子を周知することができた。 ● 女子制服のスラックス導入 や、令和6年度からジャージ・ハーフパンツ・シャツは、保護者の意見、在校生・教職員の 投票によりリニューアル することができた。 ●学校行事とおして、家庭・学校・地域との「 かかわりと 」「 つながり 」を更に意識を高めていくため、現状の取組に一工夫入れる。	